

ファッション目的の異性装を行う 男性の採用動機の解明

成田 洋行

本論文は、男性が女性特有の衣服を着用する「異性装」という批判の対象となる行為が、ファッションとして採用されるまでのメカニズムを解明する。

第1章では、ファッション目的の異性装の誕生時期を明確にするために、日本における男性ファッションの流行の歴史を1960年から1990年まで時系列で整理する。そして、男性のファッションに影響を与えているブランドや社会的要因を把握していく。

第2章では、ファッション目的の異性装を行う男性の歴史について述べていく。第1節では、ファッション目的の異性装を行う男性の登場の背景や周囲からの批判の有無について、既存の論文や文献などの2次データを基に詳しく紹介していく。第2節では、『Tokyo Graffiti』というファッション・カルチャー誌におけるスナップ写真を取り上げ、ファッション目的の異性装という現象の規模と異性装の対象となるアイテムの着用方法やブランドについて詳しく紹介していく。

第3章では、原宿におけるフィールドワーク調査を行い、ファッション目的の異性装の実態を把握していく。第1節では、調査場所、日時、目的などの調査概要について紹介する。第2節では、街頭でカウント調査を実施し、現在のファッション目的の異性装がどのくらいの規模であるのか述べていく。第3節では、メンズあるいはユニセックスの商品として、女性特有のアイテムが販売されていることを明らかにするため、店舗（の店員）へ調査を行った内容を紹介する。それにより、ファッション目的の異性装に影響を与えているブランドについて述べていく。

第4章では、本論文における結論を導き出すため、ファッション目的の異性装を行っている男性に対してインタビュー調査を行った内容を紹介していく。第1節では、2次データを基に立てた仮説を整理する。第2節では、仮説を基に、ファッション目的の異性装を行っている男性に対してプレ調査を行い、新たな仮説の立案に努める。第3節ではプレ調査で再立案した仮説を基に本調査を行い、新たな仮説を導き出し、本論文の結論を導き出すための調査結果をまとめる。

第5章では、第4章のプレ調査並びに本調査結果を整理し、ファッション目的の異性装の採用に至る要因を図式化し、結論を述べる。その上で、結論に対する筆者の考察と、本論文の貢献、今後の課題を述べていく。